

令和 8 年 7 月 24 日発行

◆・☆・◆・☆・◆・☆・◆・☆・◆・☆・◆・☆・◆・☆・◆・☆・◆

農業担い手メールマガジン（第 4 5 7 号）

◆・☆・◆・☆・◆・☆・◆・☆・◆・☆・◆・☆・◆・☆・◆・☆・◆

<トピックス>

1. 「令和 8 年度 病害虫発生予報第 5 号（水稲特集）」（令和 8 年 7 月 23 日（木）付け）を
発表しました
2. ノウフク・アワード 2026 まだまだ皆様の取組募集中！
3. 国内肥料資源利用拡大アワード 8 月 17 日まで募集中
4. 令和 8 年度中央畜産技術研修会「新規就農・後継者対策」の参加者募集中！
5. （Web セミナー）食品事業者との連携で生産者はどう変わる？
6. オンラインスクール「組織マネジメント」「農家の承継実践講座」申込受付中！
7. （みどり戦略技術紹介）有機質資材の肥効見える化アプリ
8. 土壌伝染性のウイルス病に強い麦茶用大麦の新品種「カシマホープ」
9. ヘクタール規模の草地でマメ科植物の分布を AI で簡単に把握

◆◆◆現場の皆さんへ◆◆◆

-
1. 「令和 8 年度 病害虫発生予報第 5 号（水稲特集）」（令和 8 年 7 月 23 日（木）付け）を
発表しました
-

農林水産省は、今後の水稲の病害虫発生動向や防除について「令和 8 年度病害虫発生予報
第 5 号（水稲特集）」を発表しました。

気象庁の向こう 1 か月の予報（7 月 16 日付け）では、気温は、全国で高いと予想されてい
ます。特に、北日本、東日本及び西日本では、期間の前半（7 月末まで）は気温がかなり
高くなると見込まれています。降水量は、北日本日本海側で平年並か多い、その他の地域
でほぼ平年並と予想されています。日照量は、北日本、東日本及び西日本でほぼ平年並、
沖縄・奄美で平年並か多いと予想されています。

斑点米カメムシ類の発生が、東北、北関東、北陸、近畿及び四国の一部の地域で多くな
ると予想されています。

トビイロウンカの発生が、中国及び四国の一部の地域で多くなると予想されています。

紋枯病の発生が、北東北の一部の地域で多くなると予想されています。

この他、いもち病等、地域によっては多くなると予想されている病害虫があるので、都道府県の発表する発生予察情報等を参考に適期の防除を実施してください。

◇ 「令和８年度 病害虫発生予報第５号（水稻特集）」の発表について（令和８年７月 23 日（木）付け農林水産省プレスリリース）はこちらから（農林水産省 Web）

→ <https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/syokubo/260723.html>

※ 都道府県の発表する病害虫発生予察情報と併せてご利用ください。

◇ 都道府県の病害虫発生予察情報などはこちらから（農林水産省 Web）

→ <https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/yosatu/index.html>

◇ お問い合わせ先

農林水産省消費・安全局植物防疫課（担当：国内防除第２班）

TEL：03-3502-3382（直通）

２．ノウフク・アワード 2026 まだまだ皆様の取組募集中！

多様で魅力的な農福連携の取組を表彰する「ノウフク・アワード 2026」について、おかげさまで様々な取組が全国各地から寄せられています。

受賞された方には、表彰式へのご招待のほか、当省ホームページや関係団体を通じて取組内容を全国的に広く発信してまいります。

自薦・他薦を問わず、農福連携の現場で頑張っている皆さんの素晴らしい取組をぜひ教えてください！まだまだご応募お待ちしております♪

■ 応募期間

2026 年 6 月 15 日（月曜日）～ 8 月 24 日（月曜日）

■ 応募対象

地域において、農林水産業で障害者等（※）の多様な能力が発揮され、農林水産分野、福祉分野が抱える様々な課題の解決の実現はもちろんのこと、障害者等の社会参画の実現、地域農林水産業の維持・発展、更には地域活性化にも貢献している団体等

（※）障害者等には、高齢者や生活困窮者、犯罪をした者、ひきこもりの状態にある者等の生きづらさを抱える多様な人々を含む。

■ 応募方法

ノウフク・アワード 2026 募集サイトより応募用紙をダウンロードし、必要事項を記入の上、エントリーフォームからご応募ください。

◇ ご応募はこちら（ノウフク・アワード 2026 特設サイト）（ノウフク Web）

→ <https://noufuku.jp/award/>

◇ ノウフク・アワード 2026 に関するお問い合わせ先

農福連携等応援コンソーシアム事務局（一般社団法人日本基金）

MAIL：noufukuaward@nipponkikin.org

3. 国内肥料資源利用拡大アワード 8月17日まで募集中

肥料原料の多くは海外に依存しており、国際市況や輸出動向の影響を受けやすい状況を踏まえ、国内資源を活用した生産体制づくりが急務となっています。

農林水産省では、堆肥や下水汚泥等の国内資源を活用した肥料への利用拡大を推進しており、その一環として「国内肥料資源利用拡大アワード」を日本有機資源協会が実施しています。

皆様の取組事例を広く発信し、国内資源由来肥料の利用拡大につなげていきたいと考えておりますので、積極的なご応募をお待ちしております。

□ 応募資格

国内資源を活用した肥料利用に取り組む農業者・農業団体・企業等

□ 表彰内容

農林水産省農産局長賞・畜産局長賞、国土交通省上下水道審議官賞等を予定。受賞事例はホームページ等で広く紹介されます。

□ 応募締切

令和8年8月17日（月）

◇ 詳しくはこちら（日本有機資源協会 web）

→ <https://www.jora.jp/activity/kokunaishigenaward/>

◇ お問い合わせ先

一般社団法人日本有機資源協会

TEL : 03-3297-5618 / MAIL : award@jora.jp

農林水産省 農産局 技術普及課（担当：井上）

TEL : 03-6744-2107

4. 令和8年度中央畜産技術研修会「新規就農・後継者対策」の参加者募集中！

＜畜産関係者向け研修会のご案内＞

農林水産省畜産局では、中央畜産技術研修会「新規就農・後継者対策」を開催します。新規就農者の支援に携わる方、また新規就農されたばかりの農業者の皆さまを対象とした研修です。ぜひご参加ください。

○ 日時：令和8年10月6日（火）～10月9日（金）

○ 会場：独立行政法人家畜改良センター中央畜産研修施設（福島県西白河郡西郷村大字小田倉字小田倉原1）

○ 申込期限：8月17日（月）頃まで

○ 主なカリキュラム

・畜産をめぐる情勢・新規就農及び担い手対策について・家畜衛生の現状と対策・就農のための資金計画のポイント・農業経営・畜産経営の特徴とその経営指導手法の基本的考え方・総合討論「担い手確保のために必要な対策」・現地実習・子牛の衛生管理技術及び飼養管理

○ 受講対象者：国、地方公共団体、畜産関係団体又は農協等生産者団体等の職員で当該部門の指導に携わる初任指導職員、農業に従事する者

◇ 詳しくはこちらのカリキュラム(PDF：110KB)をご確認ください。(農林水産省 web)

→ https://www.maff.go.jp/j/chikusan/kikaku/lin/l_tiku_manage/attach/pdf/index-219.pdf

◇ お申込み・お問い合わせ先

農林水産省畜産局総務課（担当：宮本）

MAIL : tyousei_chikusan@maff.go.jp

TEL : 03-6744-0568

5. (Webセミナー) 食品事業者との連携で生産者はどう変わる？

7月29日（水）、農林水産省は「産地連携フォーラム」の一環として、オンラインセミナ

ー「食品事業者との連携で生産者はどう変わる？」を開催します。

セミナーでは、広島県で国産レーズンを生産・販売する平田観光農園の平田真一様と生産者の実情に詳しい長野県の JA 中野市の上野広樹様をお招きし、連携による生産現場や経営の変化、連携によるメリットをお伝えします。

生産者、食品事業者、JA、行政、支援機関など、産地連携に関心のある幅広い業種の方が対象です。参加申込時および事前に質問も受け付けます。生産者の手取りを確保するための価格や出荷方法、産地に原料供給を依頼する際に整理すべきポイントなど、現場で感じている課題や疑問をぜひお寄せください。

日時：7月29日（水）13:30～14:45

形式：オンライン

参加費：無料

◇ お申し込みはこちら

→ <https://agriculture-foodindustry-regional sourcing.maff.go.jp/archives/producer/2533>

◇ 事前質問はこちら

→ <https://questant.jp/q/IBRWSXLO>

◇ お問い合わせ先

農林水産省 大臣官房 新事業・食品産業部 食品製造課（担当：河野・伊東）

TEL：03-6738-6166（直通）

6. オンラインスクール「組織マネジメント」「農家の承継実践講座」申込受付中！

日本の農業の未来を担う農業者向けのオンラインスクール「AFJ 日本農業経営大学校」より、「組織マネジメント」「農家の承継実践講座」講座のご案内です。

■組織マネジメント（オンライン講義）

雇用拡大や従業員定着の学習、マネジメント体制を講師と構築したい方におすすめの講座です。先進経営者3名の事例講義と主任講師の伴走支援で、理想の組織づくりを具現化します。

○ 日時：2026年10月8日（木）～2027年1月7日（木）（全7回）

- 受講料：55,000 円（税込）
- 定員：20 名（先着順）
- 申込方法：2026 年 9 月 18 日（金）17:00 までに下記よりお申し込みください。

■ 農家の承継実践講座（オンライン講義）

事業承継を検討中の後継者や、次世代へ事業を託したい経営者の方におすすめの講座です。親子・第三者・組合など多様な承継を乗り越えた現役経営者が登壇。事例解説や質疑応答を通じ、自社に最適なバトンタッチのあり方を見つけ、受講者自身のアクションプラン（承継計画）を作成します。

- 日時：2026 年 10 月 7 日（水）～11 月 18 日（水）（全 6 回）
- 受講料：33,000 円（税込）
- 定員：20 名（先着順）
- 申込方法：2026 年 9 月 17 日（木）17:00 までに下記よりお申し込みください。

◇ お申込み・講座の詳細はこちら（（一社）アグリフューチャージャパン「AFJ 日本農業経営大学校」HP）

→ <https://www.afj.or.jp/jaiam/onlineschool/#course>

◇ お問い合わせ先

AFJ 日本農業経営大学校 オンラインスクール事務局

MAIL：application-online@afj.or.jp

TEL：03-5781-3751

7.（みどり戦略技術紹介）有機質資材の肥効見える化アプリ

「みどり戦略技術紹介」では、毎月、環境負荷の低減に取り組む農業者の皆様に役立つ技術をご紹介します。

今回は、有機質資材の肥効見える化アプリ（畑・水田版）についてです。

有機質資材は、有機・減肥栽培において重要な養分供給源ですが、資材ごとの肥効を予測することが難しく、化学肥料と比べて活用しにくい点が課題となっています。そこで、有機質資材の肥効を予測し、見える化できるアプリが開発されました。

本技術により、簡単な入力で窒素・リン酸・カリの肥効を予測でき、適正な施肥管理や化学肥料使用量の低減に貢献します。また、多様な作物や作型、有機質資材に対応できるた

め、幅広い生産現場で活用が期待されます。なお、予測には一定の限界があり、実際の肥効と差が生じる場合があります。

本技術の詳しい情報については、みどり技術カタログをご覧ください。

◇「みどりの食料システム戦略」技術カタログ(分割版：その他) (PDF：961KB) p. 6
有機質資材の肥効見える化アプリ（畑・水田版）（農林水産省 Web）

→

https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/midori/l0_midori_catalog5_other.pdf#page=6

◇ 有機質資材の肥効見える化アプリ

→ https://soil-inventory.rad.naro.go.jp/main/non_paddy

◇「みどりの食料システム戦略」技術カタログ（農林水産省 Web）

→ <https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/midori/catalog.html>

◇ お問い合わせ先

農林水産省大臣官房政策課技術政策室（担当：推進班）

TEL：03-3502-3162（直通）

8. 土壌伝染性のウイルス病に強い麦茶用大麦の新品種「カシマホープ」

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構（以下「農研機構」）は、土壌伝染性のウイルス病害であるオオムギ萎縮病およびオオムギ縞萎縮病に抵抗性を有し、関東から東海向けの麦茶用六条皮性大麦の新品種「カシマホープ」を育成しました。

現行の主力品種「カシマゴール」はオオムギ萎縮病にかかりやすく、近年、発病による減収が問題となっています。

「カシマホープ」はオオムギ縞萎縮病だけでなくオオムギ萎縮病にも抵抗性を示すため、これらの病害発生地域でも減収しにくく、安定した収量が見込まれます。

「カシマホープ」の普及により、国産麦茶用大麦の安定生産と供給に貢献します。

◇ プレスリリースはこちら（農研機構 Web）

→ https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/nics/176157.html

◇ 農研機構へのお問い合わせはこちら（農研機構 Web）

→ <https://www.naro.go.jp/inquiry/index.html>

◇ お問い合わせ先

農林水産省農林水産技術会議事務局研究企画課（担当：戦略的実装班）

TEL：03-3502-7407（直通）

9. ヘクタール規模の草地でマメ科植物の分布をAIで簡単に把握

農研機構は、ドローン空撮画像と人工知能(AI)を用いて、イネ科牧草とマメ科牧草が混播された牧草地におけるマメ科牧草の被度を簡便に推定する技術を開発しました。

本研究では、小規模試験ほ場で開発してきたAI植生評価手法を、大規模生産ほ場に適用できるように改良し、北海道では標準的なヘクタール規模の草地において、マメ科牧草の分布を高い精度でマッピングすることを可能にしました。

これにより、草地全体の両牧草割合を適正に維持するための精密な施肥や追播(ついは)など、効率的で持続的な草地管理が可能になります。

◇ プレスリリースはこちら（農研機構 Web）

→ https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/harc/174210.html

◇ 農研機構へのお問い合わせはこちら（農研機構 Web）

→ <https://www.naro.go.jp/inquiry/index.html>

◇ お問い合わせ先

農林水産省農林水産技術会議事務局研究企画課（担当：戦略的実装班）

TEL：03-3502-7407（直通）

◆◆◆編集後記◆◆◆

農林水産省が発行しているウェブマガジン「aff」の7月号に「暑さに向き合う～進む日本の農業～」と題して、猛暑に負けない品目を新たな地域の特産品として育成する記事がありましたので一部ご紹介します。

京都のある地域では長年「加茂なす」「九条ねぎ」といった京野菜を栽培してきましたが、近年は夏場の高温化により、なすは開花しても結実せず、ねぎは十分に成長できないなど、品質や収穫量に深刻な影響が出ています。そうした中で注目されているのが、おくらです。アフリカ原産のおくらは暑さに強く、また栽培の手間が比較的少ない点も魅力です。

気候変動への適応策として栽培技術や品種の改良が求められています。場合によっては記事のように新しい作物の導入に挑戦したり、地域の特産品として新たな産地づくりに展開させていくことも有効な手段です。気候変動を契機に新たな品目の栽培に果敢に取り組む農

